

平成27年度第一回森林環境保全基金運営委員会 会議要旨

開催日時 平成27年5月29日(金) 14時00分～16時00分
開催場所 興林会館 5階会議室
参加者 (委員)
根小田渡委員長、堀澤栄副委員長、有光尚委員、片岡桂子委員、
門田芳穂委員、川村純史委員、中井勇介委員、林須賀委員
※欠席委員 時久恵子委員、山中國保委員
(事務局：高知県林業環境政策課)
上岡課長、田渕課長補佐(木の文化担当)、福田主幹、中越技師
(事業担当課)
鳥獣対策課：門脇チーフ、宮崎主幹
木材増産推進課：出口主任、東主幹
木材利用推進課：大野チーフ、仙石主査
環境共生課：日田チーフ、久保主幹
高等学校課：國廣指導主事、宮川主幹
生涯学習課：東課長補佐、川上主任社会教育主事

1. 林業環境政策課長挨拶

2. 議事

【1】平成26年度森林環境税活用事業の実績報告について

～公益林保全整備事業・みどりの環境整備支援事業(木材増産推進課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明。

(委員長)

みどりの環境整備支援事業の達成率が60%であった主たる原因は、台風だったのか。

(事業担当課)

台風の影響が大きい。森林の路網等が被災し、その復旧に時間を要し、事業が実施できなかった。

～集落ぐるみ捕獲推進事業経費(鳥獣対策課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明。

(委員)

平成 26 年度配布した 4,000 個のワナでの捕獲頭数の集計はあるのか。

(事業担当課)

平成 25 年度配布したワナでは、平成 26 年 12 月末までの捕獲頭数は 2,051 頭となる。平成 26 年度のワナでは、配布してから実質 2 か月であるが、同じ 12 月末で、約 700 頭捕獲できている。

(委員長)

ワナは、鉄砲よりも効率がいいのか。

(事業担当課)

平成 25 年度でシカを 1 万 9 千頭捕獲したが、7 割がワナである。

(事業担当課)

捕獲効率的に言うと、1 日出た場合は、実際に追いかける銃猟の方が、シカに出会う確率が高い。年間を通してみると、ワナ猟の方が稼働日数が長いので、捕獲率は高くなる。銃は夜できないが、ワナは 24 時間かけることができ、一人 30 個まで設置できるため、効率は高くなる。

(委員)

ワナは、免許を持っている方に対して、大体、行き渡ったのか。

(事業担当課)

ワナの免許を持たれている方は、最近増え、正確には把握できていないが全部で 3,000 人近くいる。ワナは一人 30 個とすると 9 万個となり、比較するとわずかとなる。ワナは、できるだけ被害の大きいところを中心に配布している。

～希少野生動植物保護対策事業(環境共生課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明。

(委員長)

先日の視察では、モミなどの樹木の被害が著しかった。希少植物の被害対策は実施しているが、環境共生課で樹木に対して別に対策しているのか。

(事業担当課)

環境共生課で直接実施している対策は、希少植物のみである。先日現地で、コンサルタントから話があったとおり、役割を分担して取り組んでいる。物部地区は大部分が国有林なので、国有林が一定必要な部分をカバーしている。民間のボランティアがササを守る。県は希少植物を守る。それぞれが役割分担をして取り組んでいる。

(副委員長)

先日の視察では、ネットを張るだけでだいぶ植生が回復することが分かり、ねばり強く実施していくことが必要だと思った。

毎年保護する場所を増やしていくので、これからどのように続けていくのか、工夫が必要だと思う。修繕は手がかかってくる。少ない予算ではあるが、何とか続けて保護していただきたい。

囲った所は回復してきたが、周囲は駄目になっている。環境は、総合的に作るものなので、シカ被害対策との組み合わせで、効果的に実施したらよいと考える。

(委員)

先日、被害の甚大さを知ることができ、現地に行って良かったと思う。

依光先生から、ブナは根が土から出ると枯れると聞いた。視察後、大座礼山のブナ原生林が心配になり、登ってきた。大きなブナの一本が、芽が出ていなかったなので、すぐに大川村に報告した。ブナ林の周りではササが無くなっている所はなく、木の所々に、シカが噛んで皮を剥いだ跡が何箇所もあった。

自分も山に行つて植物を見るが、どれが希少植物か分からない。地区別の希少植物のリストはあるのか。

(事業担当課)

レッドデータブックを作っている。名前だけの掲載で、写真などは掲載していない。希少植物は盗掘の可能性があり、ピンポイントの場所を表しにくい面もある。

(委員)

一度、高知県全体を見て回り、部外秘のリストを作成した方がよい。全体調査をできればお願いしたい。

(事業担当課)

数年前、牧野植物園と高知県が一緒になって高知県植物誌を作成している。この地域に、この植物が生息しているということを掲載している。希少植物は、レッドデータブックで整理している。希少植物なので、特定した場所までは表していない。

(委員)

今までは、人工林が荒廃して大変だなという意識だったが、視察で、現実を目の当たりにして、シカによって自然林も被害が進んでいることがよく分かった。シカの被害の実態を広く県民の方にお知らせしていただきたい。

～環境学習推進事業(事業担当課:生涯学習課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明 (資料3のH27年度事業の追加変更も含む)

(委員長)

室戸青少年自然の家の事業は、単発的なものか、それとも今後も継続するのか。

(事業担当課)

平成26年度には、室戸青少年自然の家は、今後継続してリーダー研修を実施すると言っていたが、平成27年度の人事異動により、室戸青少年自然の家での経験者が大幅に入れ替わり、リーダー研修が実施できない状況となった。

高知県では、インストラクター研修しか予算化していない。

(委員長)

国の予算は付いているが、やる人がいないので、実施できないということか。

(事業担当課)

独立行政法人では予算を構えているが、室戸青少年自然の家で、リーダーを養成できるスキルを持った人が、九州に異動したため、実施できない。

(委員長)

平成 26 年度中止したリーダー研修を県で実施するのか。

(事業担当課)

今年も県で実施したいが、インストラクター研修の分しか平成 27 年度は計画していない。本来であれば、室戸青少年自然の家でリーダー研修を受講した方が、18 時間の演習を終えた後、指導者としてスキルアップをするインストラクター研修を受講することを考えていたが、今年度はその通りにはできなくなった。委託先の高知自然学校連絡会で平成 25 年度にリーダー研修を実施しているので、その受講者にもインストラクター研修への参加の声掛けをする形で対応したい。

～高校生森林環境理解事業、高校生後継者育成事業(事業担当課:高等学校課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明

(委員長)

実績は当初予算の 80%だが、理由があるのか。

(事業担当課)

昨年度、四万十高校での体験活動が天候の関係上取り止めとなり、山に行くバス代の経費が減となった。

(事業担当課)

昨年は雨続きの夏休みで、大雨の危険もあり、延期ではなく中止せざるを得なかった。

(委員)

可搬式林業機械と建設機械の資格を取得した 48 名のうち 7 名が林業関係の就職または進路と決まったが、それ以外の方の就職や進路は把握しているか。

(事業担当課)

林業関係の就職や進路ということで調査をかけたため、全てを把握していない。

48 名は 2 年生と 3 年生の合わせた数字。可搬式の生徒の大半が 2 年生。車両系は 18 歳以上しか資格が取れないので、3 年生のみの受講となる。2 年生で可搬式を取り、3 年生で車両系を取る。3 年生だけでは、幡多農業高校と高知農業高校を合わせて 18 名が資格を取っている。そのうちの 7 名が林業関係の就職や進路であった。

(委員)

後継者育成事業の講師は、どのような方か。

(事業担当課)

土佐山田の森林総合センターに泊まりがけで行って、その講師の方と伺っている。幡多農業高校は、土佐山田まで行くバス代などを森林環境税で支援してもらっている。

(委員)

県内のあちこちの貯木場で、置かれている木の量が増えている。高知の山は動いているという感じがしている。高校卒業者や新卒の雇用先の需要として高知県の林業関係は増えているのか。

(事業担当課)

今年、高知農業高校の森林科学系の学科への入学者は、昨年と比べ増えている。ただ、定員の40名を満たしていない状態は続いている。求人票がどの程度きているのかは把握していない。資格を取るということは、生徒達自身の意識が向上しているためだと、先生から伺っている。今、県が林業学校を作るなど、色々な施策を実施しているため、県内の林業関係の仕事は生徒達の意識にある。先生たちも勧めている。

～山の学習支援事業(事業担当課:林業環境政策課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明

(委員)

各校で行われている授業内容、最近の傾向や特徴的なことが分かれば教えてもらいたい。

(事業担当課)

授業時間を確保することが難しいので、学校に対して、県から、以前からやっていた避難訓練や地域学習の際に、森林に関わるようなことを入れてもらえるように提案した。避難に絡めて、例えば、山に行き竹でご飯を作るなど、学校でアレンジをして、申請をしてくるところが若干増えてきた。

なかなか、間伐など単独での実施は難しく、ちょっとアレンジして山や木材と関わる機会を増やしてもらっている。

(委員)

逆に、普段の暮らしの中に、自然に木の文化が入ってきているので、良いのではないか。

(事業担当課)

長年、当事業を実施している学校の中には、1年生の時は軽めで親しみを持つようにし、5、6年生になるに従って、森林の機能や実際に山に行って間伐のことを勉強するようにし、段階的に組んでいるところもある。

～森づくりの理解と参加を促す広報事業(事業担当課:林業環境政策課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明

(委員長)

リーフレットは出版関係に依頼したのか。

(事業担当課)

リーフレットは印刷会社に委託した。

(委員長)

企画から編集まで全てか。

(事業担当課)

企画は県で、編集は県と印刷会社でやり取りをしながら、より良いものを目指した。取材にはカメラマンを同行してもらった。カメラマンの経費は委託料に含んでいる。

(副委員長)

リーフレットはとても出来が良く、すばらしいと思った。チラシもすごく良くできていて、センスが良いと思って、大変うれしい驚き。mamoriはホームページにPDFで掲載しているように、リーフレットやチラシもPDFで掲載できないか。

(事業担当課)

県のホームページにPDFで掲載しているので、一度、ご覧いただきたい。

(副委員長)

チラシの円グラフが、アイキャッチャーで素晴らしい。リーフレットの仕事紹介も、と

でも魅力的でよくできていると思う。

～こうち山の日推進事業(事業担当課:林業環境政策課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明

(委員長)

こうち山の日県民参加支援事業委託料は、県民参加人数は昨年度より増えたが、経費は、予算の78%となっている。経費が少ない理由は。

(事業担当課)

県民が参加できるボランティア活動を実施する際に、指導するスタッフが必要となり、スタッフに対して賃金を支払っている。参加者が83人と多かったボランティア活動では、スタッフの賃金が5人分しか必要なかったこともあり、経費が少なくなった。1回の活動を10～15人の参加と想定し、3～4人程度スタッフが必要と考え積算しているのに、差額の賃金が予算の100%に達しない理由である。

(委員長)

人件費が理由なのか。

(事業担当課)

人件費で少なくなっている。保険代は予想したとおりであった。

(委員長)

参加者が多いのにスタッフが少なくても構わなかったのか。

(事業担当課)

参加者が多い活動は、内容が森林環境学習であったため、スタッフが少なかった。間伐の場合は、参加者5、6人に1人スタッフが必要となる。スタッフの金額はトータル44名分しか必要なかった。

(委員長)

当初の予定よりもスタッフが少なかったのか。

(事業担当課)

スタッフが少なかった。回数は予定よりも増えているが、少ないスタッフで開催できた活動が多かった。

(委員長)

スタッフになる人が、元々少ないということではないか。

(事業担当課)

そういうわけではない。参加者の人数によって、必要なスタッフの人数しか積算しない。森林環境学習では、参加人数は増えるが、スタッフの経費は少なくなる。

～運営委員会等開催費(事業担当課:林業環境政策課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明

質問は特になし

～木の香るまちづくり推進事務(木材産業課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明 (資料3のH27年度への事故繰越も含む)

(委員長)

当事業が始まってから何年ぐらい経つのか。

(事業担当課)

平成21年度から徐々に拡充し事業を進めており、5年が経過した。

(委員長)

雨風で劣化しているところもあると思うが、対策はしているのか。

(事業担当課)

劣化を防ぐ手法は、木ではなかなか難しい。完全に劣化を防ぐには、コーティングすることになる。見た目は木であるが、触ると違うものとなる。これは、木の良さでもあり、悪さでもある。適宜メンテナンスをすとか、取り替えていくことが、木の新しい需要に

もつながっていく。

【2】平成27年度森林環境税活用事業の追加について

～森林保全作業安全研修(林業環境政策課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明

(委員)

昨年度、新聞を見ていると林業の事故災害が多かった。私は昨年度、産業振興計画の林業部会に参加し、そこでも、事故が多いことが話題になった。特に自伐が流行りつつある関係で、労災にかかってこない事故も相当出てきていると聞いた。この事業を是非とも実施し、多くの方に受けていただいた方がいいと思う。

(事業担当課)

森林・山村多面的機能発揮対策交付金でも平成25年度42団体、平成26年度59団体、平成27年度67団体が採択され、増え続けている。自伐林業も県が推進しているため、増えてきている。事故がないよう、安全面が大変重要となっているので、当事業で5回安全研修を実施させていただきたいと考えている。

(委員長)

国はお金を減らしたのか。

(事業担当課)

農林水産省は毎年、森林・山村多面的機能発揮対策交付金で30億円概算要求していたが、平成27年度は査定で減額となった。高知県は森林・山村多面的機能発揮対策交付金の実績が多かったが、他県で少ないところもあり、トータルで減ってしまった。

(委員長)

高知県は山が急峻であり、事故が起こる可能性が高いと思う。

(事業担当課)

みなさん、安全面では注意していると思うが、安全研修を受講して知り得る知識もあると思う。県としても安全研修を受講していただき、ボランティア活動や多面的の活動をやっていただきたい。

(委員長)

国の減額した予算は、森林・山村多面的機能発揮対策交付金の予算ということか。安全面の予算でこれだけという枠はあるのか。

(事業担当課)

森林・山村多面的機能発揮対策交付金の予算であり、安全面でこれだけという枠はない。

(委員長)

急峻なのは、日本の山全体の特徴だと思う。安全面については、県から国に、特に個別に出すように言うべきではないか。

(事業担当課)

安全に対して個別に付けていただければありがたいが。

(事業担当課)

安全面でいうと、当課の制度は、森林保全ボランティアの方を対象にしている。別途、当部の他課で自伐林業、いわゆる生業としてやっていく方を対象とした安全研修も実施している。部全体としては安全研修を徐々に充実させているところである。

【3】平成27年度森林環境税活用事業の概要について

(事務局) 資料に基づき説明

(委員)

先日現地視察に行って非常に思ったことだが、依光先生がボランティアで大変なご苦勞をされているが、希少野生植物食害対策事業などで、ボランティアに対する支援はできるのか。

(事務局)

過去に、依光先生から「こうち山の日推進事業補助金」への応募があり、採択されている。個別には、どこかの課から提案がない限り難しい。

(委員)

どこかの課が提案したら良いのか。

(事務局)

課から提案があり、県庁内での予算協議の後、当委員会での審議を経ることになる。

(委員長)

依光さんが活動しているものには森林環境税の予算は使われているのか。

(事務局)

10年の変化を体験するツアーの開催が、平成26年度のこうち山の日推進事業補助金で採択された。先日の現地視察と同じように、10年前の現地の写真を見ていただき、実際に現地を見ていただくツアーを県民対象に実施した。

(委員長)

先日いただいた報告書を見ると、別ルートから資金の提供を受けている。

(事務局)

資機材は国有地の場合は、国から提供を受けている。バス代などは、他基金などから出してもらっているようだ。

3. その他

(事務局) 今後のスケジュールを説明

(委員長)

第2回の10月の委員会は新しい委員会の体制で動くのか。

(事務局)

時期的には、改選後の開催と考えている。

(委員長)

ほか、特になければ、今日の委員会を終了する。

以上で閉会